

CASBEE[®] - 建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)イーエルオカモト様新築工事	階数	地上3階	
建設地	京都府亀岡市曾我部町重利ノ口	構造	S造	
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	60人	
地域区分	5地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)	
建物用途	事務所・工場	評価の段階	竣工段階評価	
竣工年	2024年1月 予定	評価の実施日	2023年4月19日	
敷地面積	2,805 m ²	作成者	井内千恵	
建築面積	1,039 m ²	確認日	202●年●月●日	
延床面積	2,871 m ²	確認者	○○○	

外観パース等
 図を貼り付けるときは
 シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.9</p> <p>環境品質 環境負荷 L</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 2.2**

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<p>Q1のスコア = 2.5</p>	<p>Q2のスコア = 2.9</p>	<p>Q3のスコア = 1.5</p>

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.6**

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<p>LR1のスコア = 4.4</p>	<p>LR2のスコア = 2.9</p>	<p>LR3のスコア = 3.4</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>山々が見える立地にあるためその立地環境を休息の際に楽しめる建物とした。また、道路に面する室は倉庫、搬入搬出口とし、長時間使用する作業場は環境のよい方向へ配置した。</p>	<p>その他</p> <p>0</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>・開口部はできるだけ小さくし、サッシは複層とし、熱交換器は全熱交換効率のよいものを採用し室内環境の変化ができるだけ少ないように計画した。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>・搬入搬出口を道路側へ計画し、トラックが敷地内で旋回できるスペースを設けた。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>・建物高さが12m程となるため、山々の茶色の邪魔にならないように華やかな色彩を建物には採用せず、近隣の建物となじむ色合いとした。</p>
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される